[illegible]　中

911.3
オ
中

奥羽笠中

発句　月空居士

雷乃こそくる山の夕ひかな　露川

入渡る木の葉の風や神の息　梅枝子

若葉から末まて茎の九十九髪　吟水

立出は地ハしらむとや鷄頭花　藤乃

名月や八十瀬かけて賣人船　奥瀬上　等舟

蚊きりや盗人の目ゟ不動尊　楚江

首かけて相合杵やとり合　獨松
白骨と成てもなし株つくし　勢四日市 鱗長
一勝負もとる鉄炮や渡りかな　一川
擣の垂跡りしぬめ月ひとかけ　尾犬山 馬嵐
鹿の声昆布より山椒の唐可　鶴扇
秋さびし軒の瓦の落る音　何力
山風の道辺くさくも香るかな　奥保原 可川
呼継の濱よ声かけし之月雨　夫耳
嵐かなやちらしぬ梅を踏ゑかな　梅梢

一面に風なけ出もやいと柳　水玉
法花らと軒を覗ひて燕かな　尾津嶋 泉山
行ぬけて天狗影しや木下闇　同 山栄
起請書窓よりおそろし冬の月　犬山 石觜
此界の油やぬけて九月尽　白浩
ぬくぬると京へ大名をゆるかな　羽米沢 柳舟
岸おろしで上るぬらしの涼かな　竹支
まやまれて蓮の精や青女房　雨江
坂一川越へてあかるし衣かへ　尾水野 雛子

こぼれ髪帳を向て浮く星ハ　大山　露黒
我か形も埋てけりや五月闇　雨曉
かけ曲る子ハ泣安し村時雨　奥掛田　仙舟
まねとこを摘子て床も礎か舟　人青
山底ハ颪れかいふさかる帰し　保原　不流
稲刈の海まんくとくりかり　同　象舟
姫君の角力の行司や不礼講　鳥橋
口かけらくてぬ夕魚や油かり　奥堂　耳流
入相や揺り限る人ちりぬ　同　露峯

この陰れ涼民か手しや時る　常陸　松吟
澄む相ハよしゐけてたまの月　同　羊角
并札をのし投ぐりや衣配り　越高田　梅至
粽か那し指お給しされ髪けげ　保原　壽風
せく汗の笏よ流れけり合　同　腸松
ざしかけて客ある本末の熟柿かな　同　斧葉
聞る嶂しや本地暑雨の神　大山　琴流
初瓜や沸く篝の内かよかる声　同　洗口
鶏にや雛へ影さすこぼれ足　同　海舌

名月や松の手毎に光りけり　犬山少年 馬英

草の葉に小路隠れや秋の雀　日吉 歩山

青竹の一際寒し後の月　尾熱田 斗南

海底の有像ありしらくもと　津嶋 援堂

葉影りのまさ乳嗅しとよ帝　同 一水

我ら寂しとあらふ川の柳哉　同 松翠

鶯の子よ啼れてや帰花　四日市 丁濤

村ゝのあかく廣うや辻おとり　同 鳴之

足袋の音を知るや梅もの花　勢冨田 光庚

こしらへて凧に渡せし鳴子かな　林子

華やよしの柱をとり後拾　且卜

山寺に梅を落されて一葉かな　几鳥

塗桶の中へこぼれや室の梅　兎国

寒垢離ハ一万国の圖になりけり　瀬上 雙流

捷さけに如るあり川胡蝶哉　回雲

餅つきや年の杭木をくらふ音　祖永

玉子の御けわけくもりかな　瀬上 志水

鬧の中に声塩さ出し附子鳥　挨之

竹の子の今朝や雲ゐに競ひ　滴志

形代やながれて末ハ何おとし　竹里

津嶋
長き日の地脈ハたらし糸柳　挑仙

江大津
みかれやむかれ／＼て梭桐の皮　松琵

二三枝経木流れて河原かな　可中

熱田
雪折や木啄鳥鳴し松の庭　其九

車争ひや何かしの葵のちから　午鳥

菜の花ハ出る精をきとりけり　清波

夕息し人ハ消あり野雪隠　旭山

此峯を越せと流れから楠花　東唄

見まり花咲や文月七日の夜　梧鳳

参州六名亡人
若竹や王位を出てきてさて　呂湫

仙臺
さし汐を飾りに落葉めぐりけり　朱滴

同
蓑一川奪合ふ松の寒さかな　卍叟

白露をうりて錦日の柳かな　推扣

何の世の毒酒の酔や木瓜の花　不又

奥桑折
倒に頭巾かぶせる匏かな　可貞

同
焼かれても不動ハ青し赤の表　東舟

花斎ふ口から拙の怪やけしく子　悠醉

三月目に御士も浮名の生海鼠哉　瀬上 文松

蹄から皆のぶらんゆる鶏か那　同盲人 吟節

人中しを拐ふ流の世なさか角　芝流

春雨やかゝる此山の飯のあし　大津 可明

かしら鮭ハ見るまにうけ込れけり　濃前渡 風旭

須彌山の骨組白し塔の雪　字巽

唐の国まで孕句や今日の月　高田 圓卜

鵲乃きり橋こゝろし假屋形　尾作屋 梅應

紫陽草の余花にかゝるや甚艸　池天

春雨のおかり風きや雪の山　奥福島 松雨

うれしき吾妻男や雛かさり　江戸 蝶羽

脊比しく世界貌かやの峰　旭水

鶯の声手前しるや家の雪　福島亡人 故友

濱の鶇の踊や活さ新焼竃　初汲

舞かる小島につれく一筆かな　奥州思山少年 山玉

見落しせるも桜かや粽売　羽酒田 百如

若子に入る心傳恭や今竃　同 寸松

苗代や俵あさるぬるくらり　扇招

辨慶か手川試る清水かな、　江戸 尚梅

大君のうてなをみちや桃の花　同女 櫻髙

間さ紙雛や実峯山さくら　敬押

己が身の耳をなぐや瓜の蔓　遠見片 風士

刈仕舞何とや案山子の懐手　文絲

芋洗ふ聾女の何それや今日の月　羽山形 十歩

蔓草枯見え代もかり冨士俏　仙臺 汀鷺

一筋をかゝりし瀧乃寒さかな　如滴

疱瘡の守りを入てや衣かへ　地ユ

野ハ何里柳の風の涌き所　亡人 汀竒

大雪や乗りさ渡して大井川　作屋 卜之

湯起清の湯あみしてやうの花　同 軽加

余所目にハ角ふれ見ゆ孫子萌　女 琴夕

浮泥む姿や时雨の山境　桑折 畫水

紹白や毎日ミ花の行流し　林鳳

鮲踏む足のかゆさや博多百合　柏千

何かれと見あて見下手の風巾　福島 万鳥

煤掃の魚ハ何やら一夜宿の畠　瀬上　嘉岑

聘て合石の鳥居や梅の花　保原　驥花

嗅くて猫や金家月の残雛　山形　倍之

ふり袖はきのう分ある流しびな　仙臺　宗愚

玉川や名のミ流れて田へ水　鷺淵

砂もさ何ある鳥何り水紅花　仙臺　把牧

行人を留て繋くや堀の梅　涼風

川汐や船の円なる掩月　同　勇徳

三日月を四角にみる冬の山　奥州塩釜　株人

竹の子やきのふも表も云ふあり　甫太

須弥山の借りけ仏くさやこの雲　福島　三岳

間の声の見え川くれ蛍なり　奥岡村風古妻　蘭里

見境く山の棟しや雲の言　如梅

蓑虫の帰りくれるや雨の地　洞東

まてのうを啼ろ安達の雛の聲　福島　梅國

落栗やぶひ切ある水の音　山形　露秀

紙屑のはり同重しこそ雛　陽風

辿りゆくるを結く手する梅かな　江戸九歳　朝三

春

白魚やさゝ嫁るらん檀のうら　相鎌倉　繁賀

ゐ川らんを作きの世あり　梅園　庖原

おし燒や大半の客ハ白髪也　伉屋　曽推

一年の赤本記憶れ暦うり　同　槐枝

一そりさ川く晴るゝや若葉山　櫻川

さよ姫のゐりしうしく蛍ゝ姫　犬山廿　紫艶

鮭ゝ姫唯一藝の泣おとゝ　奥掛田　碩巣

怯ゝおれくり面りけや小袖巾　桃國

雪ゝけの世よむさんえ笠の骨　犬山　鯨都

ワらゝ葉の園よ行くゝや人柱　雲杉

指曲の数口情しやならゝ匏　津島　之將

去ぬくよ何うゝ衣裳や榜ろ家ふ　同　喜月

枯れくりかやや山主の庵ハ込みゝ　扇雀

八宗のふぞかゝれ納豆汁　瀬上　松林

むゝさゑの男くぁりしや杜若　伏山　青

日月を懐中してや暦賣　射三

石解や雨の餅飼よふる霽ひ　江戸　楚山

参らるく男も號ふ開くや　山形　一考

弱りの歩まさる門の棚哉　三鳥

天の網引かけてや九月尽　瀬上 楒風

笠の端を志ぬのしたや菊狩　同 廣川

此山ハ滝口やかゝるんこゐ　同 吐雲

相圖まてる忘や燈籠の飾りかゝ　歌卜

女房へ要のもしる角力かな　讃木

目録くみせる恨や二川星　見付 羽人

押さへ救ひける野ゝ分かな　喜垂

小辰も目にぬふりまする女七夕　酒田 葎亀

朝顔をえりくるや接木畑　樫木

宝鐸もさも子鎮るる桐の花　他屋 鵜心

冨士ゟ乳呑せく抱やさくの蚕　同 志宜

極ふり雨と飛ぶ郭公　薄嶋 文友

若葉や石の塔よむその間　已千

純櫻を抱くや子さまの大根引　吐雲

釣的の星もぬく葬乞ゐ　桂子

田螺をり芹つみあし笠の内　見付 芝蘭

我子とハ志らくありて陸帝　茶雀

村ゐるゝ鼻紙らしや寒念佛　見付　喜哉

鰒の囲ニ銭も懸んく一葉哉　湖峯

田の世話の人淋しき花見哉　見付　遊鶴

まくさ越又膝さむさしくれ哉　羽帆

生贄の神ハ忘れしや姥くめる　桐雀

よしみたう還幸なるや揚の月　蘋上　百朋

此晴り涼く乳起ゑや涅槃像　同　松峯

若草や揺さしめる天窓つき　奥梁川　志香

迷ひ子を後く占ふ幟哉　漱流

玄鏡の鍬面白し菜ほり　耕紫

妻くさくしはやうこの女房も　吟枝

鶯の紙衣ぬけとて帰りけり　見付　乍文

尼寺の洗濯隠す若葉哉　同　對牛

蛇柳や水を含ん川吐出しけり　同　錦山

毘沙門の納むる子や蕗の塔　千雀

青き端見えるし鶴の脛　寄水

稍针を樅すゑ行しかな　鴟波

渡り揚く雲ま居くや山桜　誰也

山こゝ川かれゆくうきつかれて　山形 露恵

動かぬよ傍をみ柄の案山子かな　同 桃仙

取ひ風を笑ひ出しや門まくら　深川 野渡

梢ちる色ちくを布施や寒念仏　岡村 風志

雛かしやあふきの梢の行かゝり　桑折 布川

むら雨や九字切り無く星向く　同 湖梆

水兎や淵にまゝ魚の跡とらん　保原 金驢

清名る青る色さく濁る暑かな　掛田 観阿

ゑのまれまて折まて咲や雲の峯　同 桃村

干る土地を三度移しや水仙花　故遊

梯や列仙傳の一人より　見付 翁後

ゆふこがれ声や小池に鳴蛙　文哉

夜泣する窓から取く名月哉　三林

三保の松原や天女の衣かな　左風

名も竈箔も静かや牛の角　松径

麦蒔する二人に隠れて雀かな　江戸 空山

天地の色ひきしめや梅の花　翠竹

暁鳥声為る瓢かたこそ知れさら　觜鈴

鼻紙包く芭蕉のたよさかり　筭玉

灰汁かけぬうちに見ておけ初なすび　支町

木の葉着て嬶や津の茶摘　二木

悔しくも箪笥添へん衣がへ　江戸女　梨旭

今朝の髭そりやまた闇　楚分

帰るひ出て鳥乃森の雪吹かな　仙臺　捨之

白雲のゆくと埋むや茶摘　尾州安賀　椿又

汁膾巴八紙子うけるゝ利　八雷

はしらせばきぬうち先へ二川星　大津　秀山

折さえて亭前ハ中ゝに牡丹　津島　里春

塩ふきりけくおちやまり合　佐屋女　左柳

水底の月を動かす水鶏かな　刈安賀　木且

稲妻のあかくや魚のまぼろし　同　未覚

まかく木も音に鳴雪の礁かな　同　呂調

一声ハ生れぬ先からほとゝぎす　大津　豊甫

むらがりや鶯餅の花のかりん　同　自樂

芋売くさうしろ番や今日の月　江草津　呂竹

ぬれしや雨後の鮭の喰ひ声　城山科　可耕

比叡から岩ねうひの下やしめむすり　山科 得能
いり行くを吹出も秋や女郎花　同山田氏女 きよ
木兎や浮世をそれゝ夜と昼　前渡 馬誂
行雲の腰とおちや村時雨　同 保三
射下す一さし蝶のゑでかり　常陸 葵洲
鉛白や令ちしく朝くもり　前渡 牛川
さ月雨の庵を見おくり栗の花　紫若
雲の峯わくさてるや浮多坊　常陸 英之
傾城の耳ひるそや一杯酒　遊竹

芭蕉葉の風より夢さけ廣けん　作文
海中よ法花も咲て生海鼠哉　桑折 一風
出代のおのれや富士の夕煙　津嶋 兎足
根の国を根よしくさやその峯　笠波
うら鮭の口うらおさめやもしき礒　波心
紙雛やかはの人のまつり神　花立
花義もの飜譯しかや焙り餅　作屋 宇林
くけ法師の千よ咲や梅の華　同女稍吟事 此糸
四十二の背くらべや九月哉　遊之

椶櫚の葉の扇ゑらくさゝなく　湖雪
山こゑの声も人数や神ふ浜　李冠
糊うりの嫁くハ宮ろ花木槿　北屋 吟山
茶聟一ハ重ちらるしま咲なゝり　津嶋 栁水
玉味噌の匂ひよ揃る牡丹かな　錦思
今織のことそうんでやみえぬ　栁之
雷了ぞなかされくまの昔かな　高田 芦外
春雨ハよ立行ちるや冬仏也　女 栁流
萩垣のうしを越まや柊の月　百和

此垣も嫁く八百生ーく蚊やるゝ　阿茸
淵の鮭踊るゝ栁の山おろし　見付 英亀
同じ名へ白ふ鞍ゐるの木の芽かな　同 市梅
一声ハきちらの谷ゝ行くさへ　同七人 梅風
葉隠れの神の若葉や関る　酒田 仁仁
十畧をとり寐の亭や村時雨　山秋 木和
風の根ハ一夢向ーー梅のこおり　冠津
石公の足跡らしや古しの霜　風村 具白
化されくりや縄手の夕涼み　福嶋 菊丹

夕かぜや青葉の笛もきれ行くまで　桑折　可則

出開さの車にひかるゝしくれ　同　徇斎

根を分る牡丹はましし何の文　掛田　流之

湯上りの袖を芍くはぶくや白牡丹　犬山　尨天

河骨の國常立としつれにけり　同　揚大

立寝する間や骸の土用干　同　斧川

外座敷へ寐くさみ藤の花　同　韃花

佐保姫の乳の耳さや畑の雨　濃日吉　柯栢

押付けし紅葉ぶさせりみそのの　熱田　不尺

歎難や一ちりうけて継子責　梅五

ありたるや志らく動く御簾の裾　犬山　巴州

蚕の囲のかゝる冠や小松川　雪汀

牛若の笛に落さうな人草　女　其夕

畦くずれ棒くぐりまたゐるや　刈谷賀　遊浙

影法師のまつはる紙雛　同　東虹

ゑり影に鱗ぶるゝや松の蔦　津島　菊東

雲の尾を引くわかれや富士詣　湖青

手練しる逆櫓の妙の蟻かな　四日市　里川

咲分とみれハ蝴蝶ハ散りにけり　四日市　畾友

土肥りて交らぬ蛍かな　碇人

松の葉の青ミに磨る時雨かな　熱田　化光

たゝミの間もる梅の移り香　犬山　竜卜

青田から蛙ハ立ある穂先かな　釜戸　松軒

大水の川添ちかし猫の恋　桑仲

田くゝなか山へ鳥羽絵の下り坂　歌的

地主ふられ霞に居るゝ雀哉　山形　挑夕

長閑さも哉いさうでせぬかな　同　匡我

三代を住て白し妻の花　四日市　周行

撰まちや花ちる中の百人一首　同　枚髙

生爪を乞ふーと芥子ハ散にけり　勢冨田　嵐立

妻まきや九十三騎の新法師　同一ミキ　水月

能島よ舟の日ハ暮しとむ十九　同宿野　春霄

おそろしき修羅の巣立や蜂の声　鵜河原　一計

狗種草蛇の衣ふりて咲にけり　津島　亀仙

小葵の繕ハひとけく散りにけり　佐屋　巨橙

さくくま抓ミ豆腐や白丁花　津嶋　萬山

雛形の命く鳥と咲てけり　津嶋　木卮

白らしく伊達の唐崎や梅の花　女　鶴亀

山吹の志ちらく散る柳かな　刈安賀　桃也

そくしき雲の破れ目やてらの川　同　万化

朝の間に研おし雲の志ぐれかな　草津　心遊

濃くうすく闇に銀川螢かな　江石山　湖柳

三日月や残りに清き女の銚　山科　露白

湖うく山やむかひの月の秋　同　芝之庭

庵まもるもの身八編をぬ鶉かな　同　遊里

雛嶋やちりくれり獨り旅　同　門波

ひよる～も鶯の庭や梅ありき　前渡　君桂

ろめきうくの螢に泥の朝日影　同安　千竹

鳶翔の籠を見るや誹ぬきり　同　楚竹

鍬負の手もなしや散る柿　常陸　斗十

菊鉢に庭に気ぬ挿へきく露草　同　不木

あらちもの乳房かりし花の花　宇全

湯化粧せしく鶯額の咲にけり　尚絅

山寺の撞らく晦やゆふ時雨　見付　一轉

胼やいかゝく桶の片男浪　見付 此桃
鐘はきのなきぬ罪や花の雪　酒田 如虹
涅槃會や鹿と称いし眼かな　同 旅藍
帰し気かりそ咲や總れ子　二風
髭花るくみくろうまくや大根川　狸友
あさしく流てしよ近し筑波山　山形 吟雨子
水晶の朝日うつけく清水かな　犬山 山羽
うつかれ一字の音や梅り花　同 律湖
盞をえ富士や日本の土用干　同 花頂

鶯や金屏の絵も咲きかひ　暑 東雀
莚の鮎や晦日八衣の汐の花　熱田 馬山
涼風や鍬の背なる浪の音　同 花養
首をあまる釜のふむしくや鬚る様　四日市 銀嵩
木瓜咲や露つ何の高軒　同 千瓢
勝了羊猪おその師走かな　富田 歌隣
涅石を抱えくおつかや初ちるひ　鵜河原 良木
障子かろ人よきみそ葛のかな　津島 知足
稲妻や雲了篭きを入れく切　同 枝卜

浄頗梨の鏡や閼伽の石に氷　犬山女　梨雪

我ゐけど歌くらまに春の花　日吉　柳糸

積塔やミミ関の東の勢ちゃん　犬山貞　其曲

名月や櫓の下行菜の白ひ　熱田　枝栞

風や唐鐔頭巾の涼しさ　犬山亡人　桐月

今ゑ花見之形家内入れ根筏　四日市　竹皮

川柳の間淀まうえる柳ら南　同　杜朴

凧の夜ぞ貪女の燈しれしり　犬山　冠嶺

夕白や宿に咲立ちゝ女　同　吐雲

風蘭や中にゑりの鳴一川　四日市　仙夫

夕顔を入日の子ぬれり　同　候和

短冊を泣きにくさ春のちれぬ　前波　亀跡

朝良ハ牛買人をおひり　大津　可風

柴漬のゆられをなし枝の春　同　芦錐

𩲃ハ此土にそまくく糸九なる　小宮賀　兎耳

枯そなるの嬰無る乞食衆　同　可卜

稲妻の涼をかく関の嵐かゝ　西五城邑　巴水

乾鮭をおさくよしそや糸車　女　糸櫻

五月雨や畠にのこる薯蕷　瀬上　等舟

蕈むしのむしとり縒抜や角の篭　津島　歌竹

村雲をきるにのしても囲く帆　鵜河原　杏井

五月雨や一目かゝるぬけしの山　保原　二柱

帆船から出塩の風の涼しさかな　熱田　拾翠

月もさ汝後ろの食ふ哉　椙田　海雪

さみ汲り笠を夕日の田うくるな　大山　馬延

幽霊の衣切流せとちぎれん　同　大車

初一ノや後陣ハいまさ少出路　同　九笹

いぬひく流る川かり今日の月　保原　二川

呉竹の葉に二度の勅使の立よけり　桑折　得泉

ますらをもむらひ下ぬるさけざる　猗竹

ぬくぬくのもの毛がるて汲けり　素功

隠逸の床にちれし紅牡丹　山形　仙夕

八景の薄雪をおさめる扇かな　同　桃夭

七夕のお外れや暮く草の露　岡村　有虎

闇を呑むれの出るく蛍かな　同　抱村

沖中ある継まかり霧の海　福嶋亡人　抱川

梭櫚の葉も風の簸出して丸雪哉　巨鶴

よ川しく對より梢の若松梅　江舟

そぬれても降ハうけぬ柳かな　桑折　野東

おとらひのからひ萩しや百合の花　同　藤英

花手子はや若法子行見るかな　犬山　自川

乞食も浪しく冬の寒山子かな　保原　易耕

蟇の吐息や雨香川天の川　犬山　呂旭

世ハうくそ鯉も鰍も鳴れ氣　同奉流交　ノ流

條かゝる雨を流ゝむや子称の花　四日市　桂可

算盤の琴や調へて店おろし　冨田　耕坡

戒行もわふるさ蔬子の嵐かな　同　鷺汀

雪舟の雪うし一筆うしもの　津嶋　濁水

山茶花や塗て矢を編く紙細工　同　鮏瀧

こぼれまでくもを鷹けある蕨かな　大津　之水

見ゝ青しこれハ澱む池の蝶　谷水

清もうるさ天の岩戸の道より　大津　一峯

出月のちう雲を流ゝむ蕨かな　之弘

雨汐も風呂炊あめの花使かな　同　梧吟

野に咲や信を下りて梅の花　不曲
天地の爐をひらくや一つの峰　羽栗
をち山をめくりて寄せくる星合や　保泉 冬松
螢を結ふ団くの傍や手績　風里
短夜のおもひ捨るや水鉢　鷺三
あはれし恩や紀念の混團　保泉 儀舟
驚かそうそのけしきや初時雨　桑折 塵人
勝ちる喰ふれて悟りけり　斗管
山一川風の耕まてさくらかな　草巴

垂るゝ笹葉の霜や笹の色　市芹
梢まゝし蹴合や風の花季かな　流石
形代や脊中の汀をぬくくり　大山 潮千
不解の花や獨参湯の精　同 周和
小男鹿の角ふり調る嵐かな　之楓
ぬきおろし裙ハ定まる枝りけり　大山 茶陸
天地の自脈や霜のふる時　同 洞水
こちらうあはれんせるや峯北花　雪賀
三味せんも奏ふるや薩摩の大根引　桑折 伴松

盗人ハ葬し兼言て偽りけり　犬山　鬼云

匏かれ何ゆりに近付く悪竜かな　月吉　開卜

初雪やせハきさ松葉に包むまて　犬山　和水

槽の火に静しむとりハ狩りけり　作屋　北臼

鳩吹や喉に立ぬる魚の骨　大津女　寄潮

白露にうつるや星の二川紋　同　はつる

浮舟を水てしきむすや笘の雪　同　閑卜

まつられて鳴けり星や沖の石　同　紀北

稲妻やぬらさて走る波の上　同　文素

山猫ハ佐保川に出る雲のこゑ　高田　万路

朝日にも影や氷柱の釘むし之　同　有隣

岩手山の影や鱸釣星の大　同　路遊

南風や窓うしさうるゝの沓　同　莞吏

七府まゝ君を寐させて粽かな　四日市　培之

池水了し鹿の子結ふ之妻の声　高田　下也

作り木の髪のさゝ宿や之月雨　同　イ舟

蜂の巣やきのふ平家の起落　同　素丁

八景の墨繪を消しけや今朝の雪　同　花北

ち鳥の啼く日や契ひ合ふ二子山　高田 石芝
逝さ海よま孫ぬすりや雉の声　同 雅圭
三ヶ月の封きく水のよどころか　世風子
落鮎の九十九瀬めぐりや竜砂川　桑折 布川
水鳥の二階ゟしらふ室津かく　同 絢斎
人宿もぬふてふ笠のさらしかな　菊塘
雪かゝる鶴のなかぬや浦の朝　青葉
斧の音よおひ出る桜みえ来るか　掛田 桃村
正夢の口舌ハ嬉しのぬれまくら　保原 可川

装束のまゝく睡るや雨の蝶　保原 塵人
皮干ゝ枝もなゝのかれや桃の花　大山女 素風
まれ板の音り晴るゝ窓の霧　亀十
唐墨のかを巻おくや後の月　吟長
しかしとハ素く迷ひの朝かな　大山亡人 雪虹
楊子の松ゟ仕切るや今日の月　推角
同行のさんみめくか鉢あらき　瀬上 嘉岑
鉄炮もとまりそかる柳かな　向髭
潰れある枝くし千葉や九月盡　向梵庵

山姫の袖や霞の山二川　賑意子

真くらく葛の輪くゝるや信田妻　無外坊

6503 36. 3. 14